

# 脳腫瘍とは

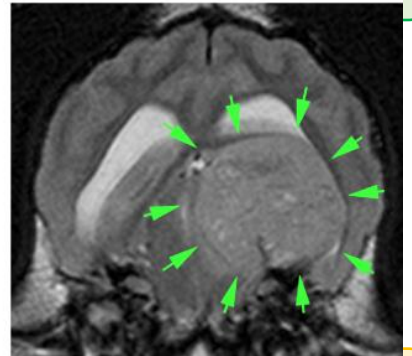
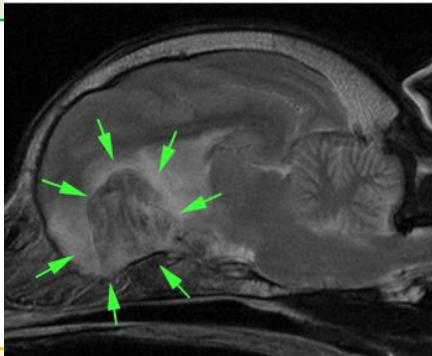
一般的には高齢の子に発生すると言われていて、ヒトと比べて発生率が5倍近くとも言われています。脳腫瘍はいくつか種類があり、髄膜腫、神経膠腫、下垂体腺腫、リンパ腫などが挙げられます。脳が原発の腫瘍、周辺組織からの浸潤、他臓器の腫瘍の転移など様々です。7歳以上の子で初めててんかん発作を起こした、という場合は脳腫瘍の疑いがあります。

## 《症状》

- てんかん様発作(けいれん発作)
  - ふらつき
  - 斜頸
  - 旋回行動
  - (下垂体腫瘍の場合)多飲多尿など、クッシング症候群の症状 等
- ※不定愁訴(特に目立った症状が見られない)の場合もあります。特に猫ちゃんでは症状なく進行することがあります。

## 《診断》

頭部MRIで診断されます。ただし、MRIだけでは脳血腫など他の病気との鑑別が難しい場合もあります。MRIは基本的に麻酔下での検査になりますが、頭の中に腫瘍が存在している場合は麻酔自体が高いリスクとなる可能性もあるため、MRIの前に血液検査・エコー検査・神経学的検査などを行い総合的に麻酔リスクを判断する必要があります。



## 《治療》

### ◆ 内科治療

腫瘍による脳の炎症・浮腫の改善のためのステロイド剤や、脳圧降下剤などを使用します。腫瘍によりてんかん発作が認められる場合には抗てんかん剤の投与も必要となります。

### ◆ 化学療法(抗がん剤)

抗がん剤が有効な脳腫瘍は限られており、脳腫瘍の確定を画像検査のみから行うのは困難であることも多い為抗がん剤単体での治療を行うことは稀です。

### ◆ 放射線治療

手術が困難な部位や種類、または手術により摘出した後に残った腫瘍細胞を減らし、再発を防ぐ為に有効な場合もあり、脳腫瘍に対して有効な治療方法の一つです。ただしすべての脳腫瘍に有効なわけではない事、治療の為に毎回麻酔が必要になる事、できる施設が限られる事などがデメリットとして挙げられます。

### ◆ 外科手術

頭蓋骨の一部を開け、外科的に腫瘍を取り除きます。ただし、開頭手術が可能な獣医師・設備が整った病院が限られており、また他の手術と比べてリスクが高い事、手術をしても完治が難しい場合があることなどから慎重な検討を要します。